

第5次 登別市社会教育中期計画

平成28年10月
登別市教育委員会

目 次

1	総論	
(1)	策定の趣旨	1
(2)	計画の性格	2
(3)	計画の構成	4
(4)	計画の期間	5
2	人づくり	
(1)	青少年世代	6
(2)	成人世代	8
(3)	高齢者世代	10
3	家庭教育	12
4	文化活動	14
5	健康づくり・スポーツ	16
6	学習環境の整備	18
	【参考資料】	
	登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策	21
	審議経過及び社会教育委員名簿	35

1 総論

(1) 策定の趣旨

これまでの社会教育行政は第4次登別市社会教育中期計画（平成23年度～平成27年度）に基づき推進してきました。

この間、少子高齢化や人口減少社会の進行とともに、個人の価値観やライフスタイルの多様化など社会情勢が大きく変化してきました。

そのような中、国が策定した第2期教育振興基本計画（平成25年閣議決定）では、「一人一人が、多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことのできる生涯学習社会（自立）」、「個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かして、共に支え合い、高め合い、社会に参画することのできる生涯学習社会（協働）」、「これらを通じて更なる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会（創造）」という3つの方向性を実現するための生涯学習社会の構築を目指しています。

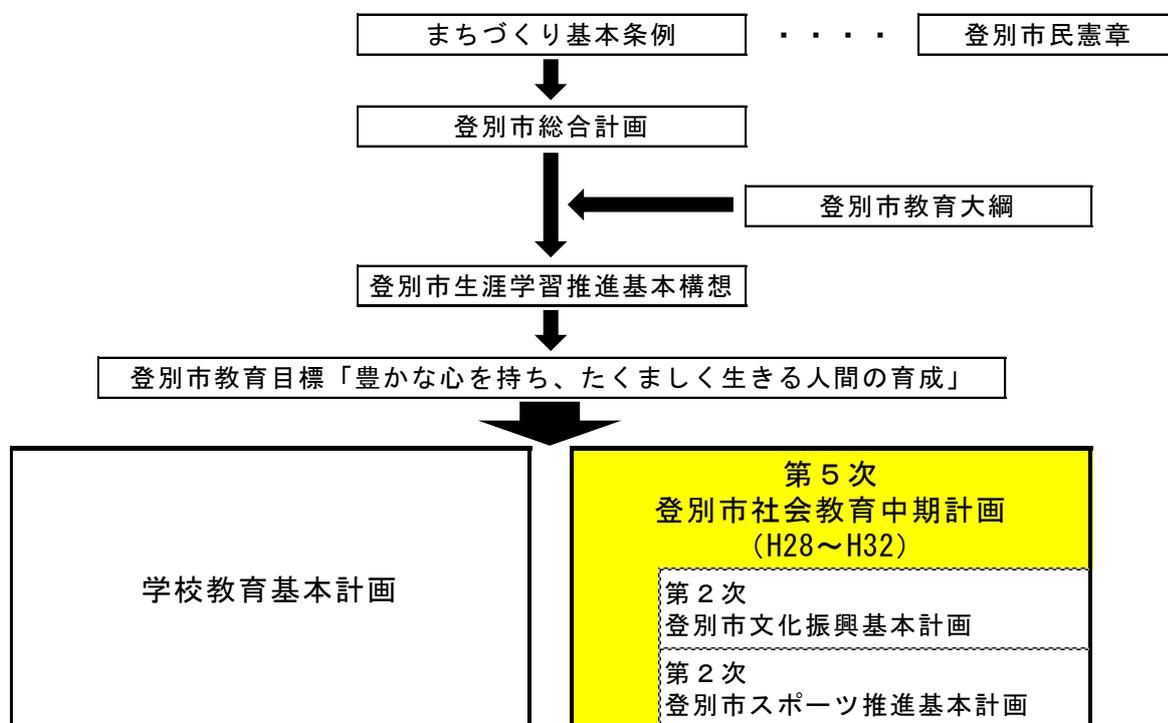
これらの方向性を踏まえ、市民の生涯学習を推進するために、社会教育行政として求められる役割を再認識し、いつでも、どこでも生涯学習を行うことのできる環境整備に努めるとともに、学校や家庭、地域、民間団体等と連携して、市民憲章の理念に基づくまちづくりの根幹となる「人づくり」に取り組むことが重要です。

本市では、これからの社会を展望し、市民の学習成果が地域活動へとつながり、地域活動で生まれた交流を通して、新たな学習機会の創出や多様な地域活動が展開されていく、「知の循環型社会」の構築を推進していくとともに、市民一人ひとりが、健康で安心できる生活の中で、生きがいを持って自分らしさを追い求めることのできる生涯学習社会の実現に向けて、第5次登別市社会教育中期計画を策定するものです。

(2) 計画の性格

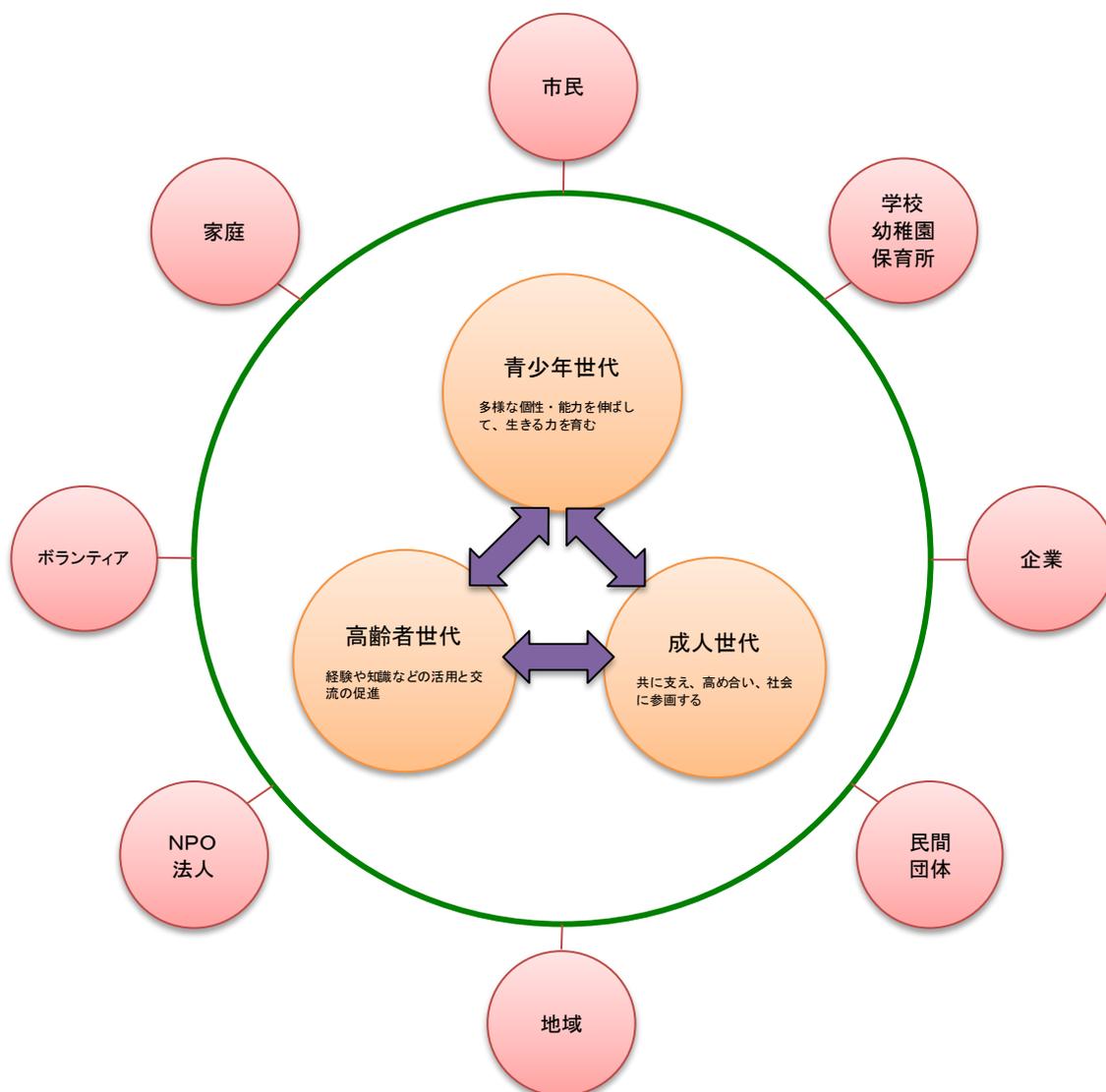
この計画は、登別市総合計画の理念に基づき、登別市生涯学習推進基本構想で目指す生涯学習社会の構築に向け、本市の社会教育を推進するための基本的・総合的な計画です。

【社会教育中期計画と他の計画との関係図】



※第2次登別市文化振興基本計画及び第2次登別市スポーツ推進基本計画の推進については、本計画における「文化活動」及び「健康づくり・スポーツ」の取組に位置づけています。

【登別市の社会教育(人づくり)のイメージ図】



- 青少年世代 . . . 児童・生徒をイメージ
- 成人世代 . . . 青少年世代から高齢者世代の間をイメージ
- 高齢者世代 . . . 定年後の世代をイメージ

(3) 計画の構成

本計画は、登別市生涯学習基本構想の基本理念に基づき、次の取組項目により構成しています。

人づくり	
青少年世代	<p>目標 これからのまちづくりを担う青少年の健全育成と地域教育力の向上</p> <p>重点施策 ◆コミュニケーション能力の育成に向けた体験活動の充実 ◆地域教育力の向上に向けた学校・家庭・地域などの連携強化</p>
成人世代	<p>目標 学習意欲の向上の奨励と地域活動の担い手の発掘・育成</p> <p>重点施策 ◆地域や企業などが実施する学習の場に関する情報の収集と活用 ◆地域教育力の向上に向けた成人世代の人材発掘・育成</p>
高齢者世代	<p>目標 学習機会の充実と地域の模範となる高齢者の活躍による地域教育力の向上</p> <p>重点施策 ◆学習機会の提供と生涯学習人材バンクの活用の促進 ◆身に付けている知識・技能などを伝える環境づくりの促進</p>
家庭教育	
目標	「家族の時間」の充実と社会全体での家庭教育の支援
重点施策	◆情報通信機器に対する理解の促進と望ましい生活習慣の啓発 ◆関係機関との連携と企業・地域などの理解の促進による家庭教育の支援
文化活動	
目標	第2次登別市文化振興基本計画に沿った文化活動施策の推進
重点施策	◆文化の保護・継承と市民の文化活動や文化を育む環境づくりの推進
健康づくり・スポーツ	
目標	第2次登別市スポーツ推進基本計画に沿ったスポーツ施策の推進
重点施策	◆スポーツ・レクリエーション活動・健康・体づくりの推進 ◆競技スポーツの推進 ◆学校におけるスポーツ活動の推進
学習環境の整備	
目標	学びの循環と市民の学習の場の確保
重点施策	◆学習に関する情報や学習の成果を活用する機会の提供 ◆ふるさと登別に関する情報の収集と活用

(4) 計画の期間

本計画の期間は、平成28年度を初年度とする平成32年度までの5年間の計画です。

2 人づくり

(1) 青少年世代

【現状と課題】

かつては、町内会を例とする地域活動などを通して、家庭だけでなく地域全体で子どもを育てていく環境が充実していましたが、近年の青少年を取り巻く状況は、情報通信技術の進展に伴い、テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォンなどの情報通信機器がより身近なものになり、また、FacebookやLINEなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）による新たなコミュニケーションツールが発達してきました。

一方で、情報通信機器を使った新たなコミュニケーションツールの安全な使い方の理解が深まらず、トラブルに発展してしまうことや、自然体験、社会体験、生活体験の機会の減少に比例して、人と人とのふれあいによるコミュニケーションも減少するなど、他者との関係づくりに課題が生じています。

また、地域の繋がりが希薄化しつつある現在は、親が身近な人から子育てを学ぶことや助け合う機会が減少しているなどの理由により、子育ての中心となる家庭における教育の重要性が高まっている一方で、地域活動への参加者は減少している状況です。

本市では登別市ネイチャーセンターを中心とした自然体験活動の場のほか、高齢者を中心とした地域のボランティアによる、様々な体験活動や放課後の子どもの安全・安心な居場所づくりが進められておりますが、担い手は不足しています。

今後も引き続き青少年の健全育成と地域の教育力の向上を図るためには、学校や家庭、地域、NPO法人、ボランティアグループなどの連携を進めるとともに、地域の自然や産業を活かした体験活動を充実させる必要があります。

【目標】

これからのまちづくりを担う青少年の健全育成と地域教育力の向上

【施策の方向性】

- ・人と人とのふれあいによるコミュニケーション能力の育成
- ・情報通信機器に対する理解を深めるための取組の推進
- ・地域で子どもたちを育てるための学校や家庭、地域、NPO法人などの連携強化
- ・自然体験や社会体験、生活体験の充実

【重点施策】

- ◆コミュニケーション能力の育成に向けた体験活動の充実
- ◆地域教育力の向上に向けた学校・家庭・地域などの連携強化

(2) 成人世代

【現状と課題】

これまで本市では、市内の団体が自主的に行う学習会に講師を派遣する市民マイプラン講座や、社会教育活動を行っている団体やサークル、指導者などを掲載した生涯学習人材バンク等の事業に取組み、市民の自主学習の支援に向けた事業を実施してきました。

しかし、近年は、成人世代において、新たな知識や技能の習得など多種・多様な学習意欲が潜在していると考えられますが、学習活動が個人的になっている傾向にあり、ニーズの把握が難しい状況にあります。

また、多くの市民は仕事や家庭の都合などで、講演会や学習会に参加出来ない状況にあることや、学習の場に関する情報収集の方法が分からなかったり、新たに学習グループなどに入ることへの不安もあるものと考えられます。

これまで地域教育力の基礎となる地域活動を担ってきた方々は、世代交代が進まないまま、高齢化が進んでいる状況にあります。今後、地域の特性を生かした教育活動を続けていくためには、これまでの担い手が身に付けた知識や技術などを成人世代が受け継ぎ、循環させることが大切です。

これらを踏まえ、成人世代が学びやすい環境を充実させるには、開催日等に配慮することや時代に即した魅力あるプログラムを提供することなど、事業を企画する際に工夫を凝らし、また、地域や企業が行う学習の場に関する情報の収集と活用も行い、成人世代の方々に多くの関心が得られ、誰もがいつでも学習できる仕組みの構築が必要です。

【目標】

学習意欲の向上の奨励と地域活動の担い手の発掘・育成

【施策の方向性】

- ・ 潜在的な学習ニーズに対応した学習への支援
- ・ 学習機会の充実に向けた情報の収集と提供
- ・ 地域の教育力を高めるための知識や技術などの循環

【重点施策】

- ◆ 地域や企業などが実施する学習の場に関する情報の収集と活用
- ◆ 地域教育力の向上に向けた成人世代の人材発掘・育成

(3) 高齢者世代

【現状と課題】

少子高齢化、人口減少という社会的な問題は、本市も例外なく進行している状況です。

そのような中、高齢者の方々に対して、自主学習の場としてのときめき大学の開設や、地域の特色を生かした学校支援地域本部事業や、放課後子ども教室においては、昔遊びを通して小学生との交流を深める「世代間交流」などを実施しており、高齢者が長年の経験により身に付けた知識、技能、規範意識、おもいやりの心などを子どもたちに伝えることは、地域の教育力を高め、生きがいを感じられる機会となり、地域の活性化につながっています。

このように、高齢者の方々は、地域活動の中心的存在として活躍されている一方で、地域では活動する人材の固定化といった問題もあり、より多くの方々に、これまでの経験などを生かしながら活躍していただくことが必要です。

このことから、引き続き、高齢者の自主的な学びを支援していくとともに、高齢者自らが先頭に立って知識、技能などを次の世代へ伝えていくことができる環境づくりが重要です。

【目標】

学習機会の充実と地域の模範となる高齢者の活躍による地域教育力の向上

【施策の方向性】

- ・ 自主的な学びに向けた学習の支援
- ・ 高齢者が身に付けている知識・技能などの活用
- ・ 世代間の交流や体験活動の機会の充実
- ・ 市民憲章等の普及・啓発活動の実践

【重点施策】

- ◆ 学習機会の提供と生涯学習人材バンクの活用の促進
- ◆ 身に付けている知識・技能などを伝える環境づくりの促進

3 家庭教育

【現状と課題】

すべての教育の出発点となる家庭教育は、家族のきずなやふれあいを通して、子どもが基本的な生活習慣や人に対する信頼感、思いやりや豊かな情操、自尊心や自立心、社会的なマナーや基本的倫理観などを身に付けていくうえで重要な役割を果たしています。

しかし、仕事や子育てなどで、時間的にも精神的にもゆとりを持つことができず、家族で食卓を囲み語り合うことや子どもと一緒に遊ぶことなど、家族のきずなを深めるために必要な「家族の時間」を積み重ねることができない家庭も少なくありません。

また、家族の時間が減少している要因として、近年は子どもたちがテレビ、ゲーム、スマートフォンなどの情報通信機器に接する時間が増えていることなどもあり、家族の時間を作るためには、情報通信機器と上手に付き合うことや生活習慣を見直すことなどが必要です。

親子が共に学び、育ち合う家庭教育を充実させるためには、家族の時間を充実させるばかりでなく、企業においては、従業員の休暇取得の推進や地域行事への協力・支援、また、地域においては、家庭と地域のつながりを通して、悩みを抱え、孤立しがちな家庭への支援、行政においては、各部局における横断的な取組により、家庭教育の支援など、社会全体で家庭教育を支えていく環境づくりが大切です。

【目標】

「家族の時間」の充実と社会全体での家庭教育の支援

【施策の方向性】

- ・ 家族のきずなを深める「家族の時間」の充実に向けた啓発
- ・ 家庭教育の充実に向けた関係機関との連携
- ・ 企業・地域などによる家庭教育への理解の促進

【重点施策】

- ◆ 情報通信機器に対する理解の促進と望ましい生活習慣の啓発
- ◆ 関係機関との連携と企業・地域などの理解の促進による家庭教育の支援

4 文化活動

【現状と課題】

本市では、平成17年3月に計画期間を10年間とする「登別市文化振興基本計画」を策定し、文化振興施策を推進してきました。

この間、社会の急激な変化は私たちの価値観や環境に影響を与えてきました。

今後も、市民一人ひとりが自主的、主体的にふるさと登別の文化の創造に関わるとともに、文化遺産の保護・継承と活用に努め、子どもたちが夢と希望を持って世界に羽ばたき、文化の多様化を認識し、私たちが住むこの土地への誇りと生きがいを感じられる個性ある文化活動と文化を育む環境づくりを進めることが重要です。

そのため、市民一人ひとりの個性を伸ばし豊かな感性や創造性を育むとともに、こころ豊かな生活を送ることができるよう、だれもが文化に親しむことのできる環境の充実を目指す「第2次登別市文化振興基本計画」（平成27年9月策定）を推進し、市民・文化団体・学校・企業・行政などが自主的・主体的・積極的に、相互に連携を図りながら文化振興施策に取り組むことが必要です。

第2次 登別市文化振興基本計画

市民一人ひとりが自主的、主体的にふるさと登別の文化の創造に関わるとともに、文化遺産の保護継承と活用に努め、子どもたちが夢と希望を持って世界に羽ばたき、文化の多様性を認識し、私たちが住むこの土地への誇りと生きがいを感じられる個性ある文化活動と文化を育む環境づくりを進めるための計画

平成27年9月
登別市教育委員会

【目標】

第2次登別市文化振興基本計画に沿った文化活動施策の推進

【施策の方向性】

- ・ 誰もが文化に親しむことのできる環境の充実
- ・ 文化活動の担い手の拡大
- ・ 歴史・文化の伝承と活用に向けたふるさと登別の歴史と文化の継承
- ・ アイヌ文化の振興に向けたアイヌの人たちへの理解や後世への継承

【重点施策】

◆文化の保護・継承と市民の文化活動や文化を育む環境づくりの推進

5 健康づくり・スポーツ

【現状と課題】

本市では、平成17年3月に計画期間を10年間とする「登別市スポーツ振興基本計画」を策定し、スポーツ振興施策を推進してきました。

この間の社会を取り巻く経済情勢やスポーツ環境等の大きな変化を踏まえ、市民の「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」気軽にスポーツに親しみながら健康で豊かな生活を送ることができる社会の実現を目指し、本市の実情に応じたスポーツ施策の理念を推進するため、「第2次登別市スポーツ推進基本計画」（平成27年9月策定）を策定しました。

今後も、年齢層に関係なく、気軽に親しめるスポーツの普及や指導者の養成をはじめ、健康づくり・体力づくりの推進や競技スポーツ、学校におけるスポーツ活動のさらなる推進を図るため、行政、市民、学校、企業、関係団体などが相互に連携を図りながらスポーツ推進施策に取り組むことが必要です。

第2次
登別市スポーツ推進基本計画

平成27年9月
登別市教育委員会

【目標】

第2次登別市スポーツ推進基本計画に沿ったスポーツ施策の推進

【施策の方向性】

- ・スポーツ・レクリエーション活動の推進に向けたスポーツを通じた人と人との繋がりや地域の活性化
- ・健康・体力づくりの推進に向けた世代に応じた健康増進と体力づくりの展開
- ・競技スポーツの推進に向けた競技スポーツのすそ野の拡大と人材育成
- ・学校でのスポーツ活動の推進に向けた学校と地域による児童生徒のスポーツ活動の充実
- ・施設整備の推進に向けた安全かつ快適にスポーツを楽しめる環境の充実

【重点施策】

- ◆スポーツ・レクリエーション活動・健康・体力づくりの推進
- ◆競技スポーツの推進
- ◆学校におけるスポーツ活動の推進

6 学習環境の整備

【現状と課題】

市内では、行政や市民団体などにより、様々な学習機会が提供されていますが、いつ、どこで、どのような学習機会があるのか、また、身近にどのような人材がいるのかといった学習に関する情報が、必要としている方々に、十分に届いていない状況があります。

そのため、学習機会を広く知らせるとともに、学習会へ講師を派遣する市民マイプラン講座、市内の講師などを登録した生涯学習人材バンクの周知と活用により、学んだ知識を生かし、そして循環させる環境を作っていくことが必要です。

また、ふるさと登別を学ぶ機会は、これまでも行政や市民団体などで提供されてきましたが、地域に根差す人づくりをより進めるためにも、市民がふるさと登別について学び、その魅力を伝えていく仕組みの構築が大切です。

様々な学習の場である社会教育施設は、その多くが建設から相当の年数が経過しており、老朽化が進んでいることから、施設の整備を図っていくことが必要です。

【目標】

学びの循環と市民の学習の場の確保

【施策の方向性】

- ・ 様々な学習の場に関する情報の提供
- ・ 生涯学習人材バンクなどを活用した学習の推進
- ・ 学習の成果を活用する機会の提供
- ・ ふるさと登別を学ぶことのできる仕組みの構築
- ・ 市民の安全・安心な学習の場である施設の整備

【重点施策】

- ◆ 学習に関する情報や学習の成果を活用する機会の提供
- ◆ ふるさと登別に関する情報の収集と活用

参 考 資 料

登別市の社会教育における
現状と課題、今後の方策

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

人づくり

青少年教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>昔は、地域で子どもを育てることが出来ていたが、現在では、人口減少、少子化、生活スタイルの多様化や担い手の減少などの要因により、子どもたちのニーズに対応できてない。</p> <p>学校支援地域本部は、コーディネーターを中心に、地域のボランティアの協力を得ながら、さまざまな事業を実施し、体験活動の充実が図られている。</p> <p>青少年教育で様々な事業を展開しているが、いろいろな事業を展開することで人の手が足りない部分もあると思われる。</p> <p>情報機器の急速な発達により、スマートフォンなどの活用やSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などの利便性のみが有効視されている。</p> <p>家に帰ってからの子どもの時間の使い方がメディアに偏重していることが多い。</p>	<p>少子高齢化により、単位町内会での子ども会の担い手や子どもが減少しており、昔より現役世代が地域で子どもたちを育てる考えが少なくなっている。</p> <p>ニーズがあっても、多くの事業を抱えることは出来ないで、活動内容の精査が必要である。</p> <p>ボランティアの高齢化により、今後のボランティアを担う人材発掘が必要である。</p> <p>事業の展開において、できることできないことを精査していく必要がある。</p> <p>保護者も含めて、危険性の認知が低い。このため、子どもたちにも危険性が認知されておらず、トラブルとなるケースが見受けられる。</p> <p>親の生活スタイルに影響されている。</p>	<p>地域で子どもを育てるためにも、子ども会組織の再編を検討するなど、子ども会活動を活発化させる必要がある。</p> <p>コーディネーターを2名体制にすることで、事業が円滑に進むと考えられるので、体制の見直しもひとつの手法である。</p> <p>新たな事業を展開するためには、時代に即して、事業を辞める決断も必要である。</p> <p>情報通信機器に関する危険性や安全な使い方などを、子どもたちに理解させるためには、親の理解を深めることができる事業を展開する必要がある。</p>

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

人づくり

青少年教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>コミュニケーションが、スマートフォンなどに依存している。</p> <p>地域の中で、あいさつなどの基本的なことが出来なくなっている。</p> <p>よその子を叱ることができなくなってきた。</p> <p>通学合宿事業については、小学校5・6年生を対象とした共同生活を通して、子どもたちの自主性、協調性、適応能力等を伸ばすことを目的としており、リピーターも多い事業である。</p> <p>少年の主張大会は、各学校の持ち回りにより実施しているが、保護者等の参加が少ない。</p>	<p>青少年のモラル低下が見受けられ、スマートフォンなどに頼ることで、コミュニケーションが不足し、人とのつながりが希薄になっている。</p> <p>地域での交流が乏しく、地域の住人が認知されていないため、知らない人には声をかけないこととされているので、あいさつができない。</p> <p>子育ての中心が家庭になっており、地域全体で子どもを育てる環境ではなくなっている。</p> <p>子どもや保護者に、事業の目的が理解されていないと思われ、事業のねらいを見失いつつあると感じられる。</p> <p>開催場所の問題もあるが、少年の主張大会への一般参加者が少ない。</p>	<p>学校・家庭・地域・NPO法人などと連携を図り、方策を検討する必要がある。</p> <p>地域で子どもたちを育てるためには、例えばあいさつ運動を行うなど、地域との繋がりを強めることなどが必要。</p> <p>事業のねらいを再確認し、生活リズムの見直しなど、課題を啓発していく必要がある。</p> <p>町内会への周知など、より多くの方々へ少年の主張を聞いてもらう。</p>

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

人づくり

青少年教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>放課後子ども教室は放課後に子どもが安心して活動できる居場所として、市内2か所で実施している。</p> <p>市で実施している放課後児童クラブと一体となった取組が求められている。</p>	<p>放課後子ども教室は地域に定着しているが、今後の運営に向けては、次代の担い手となる人材の発掘や育成といった課題がある。</p>	
<p>◎第4次登別市社会教育中期計画の重点</p> <p>【目標】 これからのまちづくりを担う青少年の健全な育成と地域教育力の向上</p> <p>【施策】 地域の特長を活かした自然・社会・生活体験の充実 行政・団体・地域・企業との連携と、学校教育・家庭教育と一体化した取組の充実</p>		
<p>◎第4次登別市社会教育中期計画の展開内容</p> <p>学校支援地域本部や放課後子ども教室などの事業では、自然体験・ボランティア活動などが地域の各種団体の協力により運営された。また、通学合宿事業では、学生ボランティアなどの協力も得て事業を推進することができた。</p> <p>学校・家庭・地域の連携による取組みの充実により、地域教育力の向上が図られた。</p>		

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

人づくり

成人教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>登別ときめき大学は、高齢者大学と婦人短期大学を見直しし、一体化した事業であるが、参加者は高齢者が中心であり、成人の参加者がほとんどいない。</p>	<p>成人教育と高齢者教育でそれぞれ開催されていた市民大学を統合した事業であるが、成人世代に向けては参加しやすい日程で開催される事業とはいえ、成人教育として、新たな展開を検討する必要がある。</p>	<p>成人世代の参加に向けては、事業の実施内容や開催日等を検討する必要がある。</p>
<p>多様化した学習ニーズを的確に把握した学習プログラムの充実とあるが、学習ニーズが何なのか見えない。</p>	<p>市民の学習ニーズを把握できていない。</p>	<p>市民の潜在的な学習ニーズに対応するためには、生涯学習人材バンクやマイプラン講座などをさらに周知する必要がある。</p>
<p>次代の指導者、指導体制の充実がなされていない。</p>	<p>人材バンクを活用するなど、次代を担う実践的な指導者の発掘と養成及び資質の向上を図る必要がある。</p>	<p>次代の担い手を発掘し、指導者の情報を広めていくために、生涯学習人材バンクの周知や地域との連携が必要。</p>
<p>成人は、夫婦共働きなどで余暇が少なく、事業への参加が見込めない。</p>	<p>余暇を活用した事業展開ができていない。</p>	<p>託児の実施や子どもと一緒に参加する事業などを実施してはどうか。</p>
<p>成人は、仕事や子育てなど時間に追われており、継続的に参加できる講座が少ない。</p>	<p>世代のニーズに応じた参加しやすい講座の検討が必要である。</p>	
<p>市民マイプラン講座では、市民サークルが企画した講座や学習会のために、講師を派遣している。</p>	<p>市民サークルを構成して活動している団体は、一部の団体ではあるが、利用団体は徐々に増加している。</p>	<p>更なる活用に向けて、周知を図る。</p>

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

人づくり

成人教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>地域イベントへの手伝いが少なくなっている。</p>	<p>町内会などへ関心が低く、成人世代がかかわろうとしないため、世代交代も進まない。</p>	<p>地域での高齢化が進んでいる中、成人世代を巻き込んでいくことが必要。</p>
<p>◎第4次登別市社会教育中期計画の重点</p> <p>【目標】 幅広い年齢層に対応した学習活動の推進と自主学習の支援</p> <p>【施策】 多様化した学習ニーズを的確に把握した学習プログラムの充実 各世代の方々が余暇時間を活用できる学習機会の充実</p>		
<p>◎第4次登別市社会教育中期計画の展開内容</p> <p>ときめき大学と婦人短期大学を統合し、成人から高齢者までを対象の事業とし、運営委員となっている学生が中心となって、年間の学習会の内容や開催時期などについて検討した。</p>		

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

人づくり

高齢者教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>登別ときめき大学は、ときめき大学と婦人短期大学の一体化により見直しした事業であるが、参加者は高齢者中心であり、成人世代の参加者がほとんどいない。</p> <p>地域の担い手の中心が、高齢者であり、様々な場で活躍している。</p> <p>高齢者が気軽に楽しめる集いがない。</p> <p>世代間交流などを通して、高齢者と小学生の交流は盛んである。</p>	<p>現状として、高齢者中心の参加者となっている状況であるが、すべてのニーズと一致することが難しい。</p> <p>活躍の場を見いだせない高齢者もいる。</p> <p>高齢者が気軽に楽しみながら生活の向上に役立つ企画が必要である。</p> <p>青年との交流が不足気味である。</p>	<p>運営委員を中心に、事業内容を検討していることから、ニーズに対応するためには、より多くの学生に運営委員として参加していただくよう促す。</p> <p>気軽に参加できるように、事業の周知方法を検討。</p> <p>青年との交流については、実施事業の内容や周知方法も含めて、検討が必要。</p>
<p>◎第4次登別市社会教育中期計画の重点</p> <p>【目標】 自主的な学び支援と地域社会への学習成果の還元を促進する</p> <p>【施策】 高齢者の知識や技術、学習成果を活用する機会の充実 高齢者同士や異世代との交流・連携による事業展開を図る</p>		
<p>◎第4次登別市社会教育中期計画の展開内容</p> <p>ときめき大学では、運営委員となっている学生が中心となって、年間の学習会の内容や開催時期などについて検討され、講座が開催された。</p> <p>学校支援地域本部や放課後子ども教室などの事業では、小学生などとの交流が図られた。</p>		

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

人づくり

全世代教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>自主的な学習機会を企画することや進行する人がなかなか出てこない。</p> <p>学習が個人的なものになっている。</p> <p>登別ときめき大学は学生が減少して、還暦を過ぎた人や働いていない人が学ぶところとなっている。</p> <p>近年では、特定非営利活動法人等により、自律的な社会教育活動が行われている事例も数多くみられる。反面、各団体においても、会員数の減少などにより、独自に事業展開していくことが難しくなってきた。</p> <p>社会教育事業への参加者が増加しない。</p>	<p>学習形態が受け身であり、主体的な実施を促すことができていない。</p> <p>他人同士が共同で企画や物事を進めていく機会がない。</p> <p>手帳の表紙を工夫するなどしてはいるものの、登別ときめき大学自体がまだ市民に浸透していないと思われる。</p> <p>今後は働いている人にも対応する必要がある。</p> <p>事業実施の可否に関わることはできないが、各団体の求めに応じて助言などの支援が必要である。</p> <p>社会教育へ主体的に関わろうとする人材が不足している。</p>	<p>学習する機会の中で共通の話題や趣味をつなげる場が必要。</p> <p>ときめき大学の情報が多くの方に届き、認識されるような情報発信を考えるべき。</p> <p>働いている方へ、時間的な配慮を検討するなど、多くの方が参加しやすくすることが必要。</p> <p>社会教育行政への理解を深めるために、事業の内容など、情報を発信する。</p>

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

人づくり

全世代教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>社会教育事業を展開する際には、これまで関わってきた団体・町内会などの協力により、事業展開をしてきた。</p> <p>事業を進めるための市民ボランティアが固定化し、高齢化してきている。</p>	<p>高度化・多様化する学習ニーズに対応するためには、これまで関わってきた団体・町内会などのほか、地元企業・まちづくり団体との連携も必要と考える。</p> <p>昔からの人の技術の継承と新たなボランティアの育成が必要。</p>	<p>これからの社会教育事業の実施継続のために、多くの団体等との連携手法を検討するべきである。</p> <p>ボランティアの育成は課題であるが、ボランティアを醸成するためには、地域においても不足している次代の担い手育成に向けた検討が必要。</p>
<p>◎第4次登別市社会教育中期計画の重点</p> <p>【目標】 世代の枠を越えた学習や地域活動の支援と新しい公共を担う人材の育成</p> <p>【施策】 学校教育と社会教育の融和による世代を越えた学習機会の充実 地域社会を支える人材の育成と学習成果活用の場の提供</p>		
<p>◎第4次登別市社会教育中期計画の展開内容</p> <p>青少年教育に位置づけている学校支援地域本部や放課後子ども教室などの事業において、様々な活動を通して異世代間の交流が図られた。</p>		

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

家庭教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>インターネット等により、いろいろな情報が得られる反面、親の一般常識の欠如を感じる。</p> <p>子ども達のコミュニケーション能力の低下を感じるが、親もコミュニケーション能力が必要ではないか。</p> <p>子育て世代の保護者のモラルが欠如し、個人の価値観に依存していると感じる。</p> <p>スマホなどのメディアの取扱いの危険性を知らずに使っていることがある。</p> <p>家庭教育学級が、親のリフレッシュに活用されていると感じる。</p>	<p>社会教育において、子どもの親が学ぶことができる場は提供しているが、参加者が少ない。</p> <p>進歩するデジタルツールについていけない親もいる。</p> <p>学級代表になってもらっている教頭や子どもの親に、学級の目的が浸透していない。</p> <p>働いている人にも対応する必要がある。</p> <p>家庭教育サポート企業の活用や、企業の協力体制を仰ぎながら本事業を充実させる必要がある。</p>	<p>メディアに関する啓発や講演会など、本当に聞いてほしい人に聞いてもらえるよう、保護者の参加しやすい時間帯や日程を含め、開催日を検討する。</p> <p>学級をつくる、維持するというだけでなく、趣旨目的の周知が不十分であったため、昼間に時間がある保護者に限らず、多くの保護者に利用してもらえ、理解が深まるような事業展開が必要。</p> <p>町内会や老人クラブとの連携など、若い世代の保護者と高齢者をつなげることで新たな学びにつながるのではないかと。</p> <p>サポート企業の活用については、協力体制を協議する。</p>

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

家庭教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>「家庭の教育を学ぶ」ことについて関心が低い。</p> <p>各市内幼稚園・小学校に学級を置いているが、内容が偏っており、参加者の確保が重点となっているように思える</p> <p>P T A 活動と内容がかぶってきており、家庭教育の重要性について理解が深まらない。</p> <p>ライフスタイルが多様化し、核家族や少子化が進行するなか、周囲のコミュニケーション不足が人間関係の希薄化や家庭と地域の繋がり減少させている。</p>	<p>参加者の集まりを重視している状況が見受けられ、趣旨目的に沿った事業展開が出来ない。</p> <p>各学級の学習内容が、P T A 主催の研修会等に類似してきているので、新しい展開を考える必要がある。</p> <p>保護者に負担が掛からず、関心を集めることのできるような展開を検討する必要がある。</p> <p>時間を作って、参加したいと思える内容を検討する必要がある。</p> <p>子育てについて「学ぶ」関心が強い乳幼児期に、家庭教育で学ぶ意識を持っていただく必要がある。</p> <p>家庭教育学級を通じて、保護者を対象にした子育てに関する情報提供や活動支援の充実が必要である。</p> <p>共働き世代を対象とした家庭教育、子育て環境を支援する講演会等を開催するなど、家庭教育の支援と理解を図る必要がある。</p> <p>親子の絆を深める事業の推進を図り、地域における自然体験活動機会の拡充を図ることが必要である。</p>	<p>乳幼児健診時に、事業の啓発を検討するなど、周知方法の検討と、ニーズの把握に向けた手法を含め、事業内容を検討する。</p> <p>家庭教育について、企業や地域などの理解を促進し、社会全体で支えていけるような方策が必要。</p>

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

家庭教育

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>家庭教育講演会を実施しているが、充実していると感じる内容であっても、参加者が少ないことがある。</p>	<p>家庭教育講演会は、幼児期の子どもの教育という視点も考慮し、行政間でも関係グループと連携が必要である。</p> <p>また、保護者に理解を得る必要がある。</p>	<p>周知方法の検討や行政間での連携を図り、日程や時間帯の配慮も含めて、よりよい事業展開を検討していく。</p>
<p>◎第4次登別市社会教育中期計画の重点</p> <p>【目標】 親が学ぶための機会と幼児教育の充実</p> <p>【施策】 関係機関等と連携し、誰もが参加する機会での学習会開催に努める 個人で学びや相談ができる環境づくりを図る</p>		
<p>◎第4次登別市社会教育中期計画の展開内容</p> <p>各小学校、幼稚園において家庭教育学級を開設するとともに、子育てや家庭での教育についての講演会を開催するなど、家庭教育の充実に向け、学習の機会を提供した。</p>		

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

学習環境の整備

現状	課題（反省）	方策（理念、施策の方向性）
<p>市内で開催される講座や体験学習が一目で確認できず、それぞれ個別に情報を集めなければならない。</p> <p>社会教育の情報がどこで得られるのかがわからない。</p> <p>地元で頑張っている方々を励ます手段としての表彰は市表彰などになるため、かなりの年数が必要となる。</p> <p>事業は様々あるが、それぞれに課題を抱えつつ、事業の目的を再確認したり、内容を見直したりということができていない。</p> <p>社会教育施設における老朽化が著しいが、その都度、小規模の修繕を実施しているにとどまっている。</p> <p>生涯学習人材バンクや各種講座の充実を図り、人材活用の定着、学校教育等への支援の充実、各種講座の充実を図っていく必要がある。</p> <p>少子高齢化により、事業展開が困難になってきていることが考えられる。</p>	<p>主催者が別々であり、広報だと時間的制約などからハードルが高い。</p> <p>どこで情報が得られるのかの周知が足りない。</p> <p>社会教育、文化、スポーツで頑張っている方々をもっと低いハードルで後押ししていることが必要。</p> <p>それぞれの事業の現状や課題の確認、目的の再確認が必要。</p> <p>施設整備にあたっては、多額の財政支出を伴い、平等に施設の環境を充実させることが難しい。</p> <p>超高齢化社会における講座の種類・内容の検討や人材バンクの整備充実、双方向のメリットデメリットの再確認を行う必要がある。</p> <p>少子高齢化と嘆いていても進まないのに、事業を展開しつづける必要がある。</p>	<p>社会教育における事業の周知方法など、情報の発信手法を検討する。</p> <p>生涯学習フェスティバルのように、地元で頑張っている方々が、活動の成果を発表する場の提供が必要。</p> <p>事業の目的や現状を再確認し、実施内容の見直しなど、検討を行う。</p> <p>地域特性や市民ニーズを踏まえ、優先順位を定めて重点的に整備を行う必要がある。</p> <p>人材バンクについては、活用が図られるような周知が必要。</p> <p>各講座等については、時勢に合わせた内容とすることも必要。</p>

登別市の社会教育の現状と課題、今後の方策

学習環境の整備

◎第4次登別市社会教育中期計画の重点

【目標】 いつでも、どこでも、だれもが学べる学習環境と学習成果を活用できる環境の整備・充実

【施策】 人材バンクの有効活用と情報機器などによる学習支援を図る
多様なニーズに対応する学習機会の提供とその成果を活用するための仕組みづくりについて検討する。

◎第4次登別市社会教育中期計画の展開内容

生涯学習人材バンクを更新し、教育委員会のホームページに掲載及び公共施設に設置するなど、情報発信に努めた。

市の広報や報道機関を活用して生涯学習事業の情報提供に努めた。

審議経過及び 社会教育委員名簿

第5次登別市社会教育中期計画の審議経過

平成27年度第1回 登別市社会教育委員の会（平成27年 6月17日）

- ・ 中期計画策定のスケジュールについて
新規計画に向けての考え方及び進め方について

平成27年度第2回 登別市社会教育委員の会（平成27年 8月 7日）

- ・ 登別市の社会教育における現状と課題について

平成27年度第3回 登別市社会教育委員の会（平成27年 9月16日）

- ・ 登別市の社会教育における現状と課題、今後の方策について
第2回で議論した現状と課題の解決に向けた今後の方策について

平成27年度第4回 登別市社会教育委員の会（平成27年10月 1日）

- ・ 第5次登別市社会教育中期計画（素案）について
これまでの議論を踏まえた計画（素案）について

平成27年度第5回 登別市社会教育委員の会（平成27年10月29日）

- ・ 第5次登別市社会教育中期計画（案）について
平成27年度第4回社会教育委員の会の議論を踏まえた修正について

平成27年度第6回 登別市社会教育委員の会（平成28年 3月30日）

- ・ 第5次登別市社会教育中期計画（案）について
パブリックコメント実施に向けた今後のスケジュールについて

平成28年度第1回 登別市社会教育委員の会（平成28年 6月29日）

- ・ 第5次登別市社会教育中期計画（案）について
パブリックコメント前の最終案の確認について
・ パブリックコメントの実施について

パブリックコメントの実施

平成28年 8月 1日～平成28年8月30日

第5次登別市社会教育中期計画の策定に関わった社会教育委員

名前	平成27年度	平成28年度	公職等	選出区分
中村 完	→		登別市立青葉小学校校長 (登別市校長会)	学校教育の関係者
上埜 幸喜		→	登別市立幌別東小学校校長 (登別市校長会)	学校教育の関係者
佐藤 画美	→	→	登別市私立幼稚園協会事務局	学校教育の関係者
守屋 聡	→		登別市PTA連合会会長	社会教育の関係者
古本 秀一		→	登別市PTA連合会会長	社会教育の関係者
合田 和彦	→	→	登別市子ども会育成連絡協議会 会長	社会教育の関係者
小塚 順一	→	→	登別市文化協会事務局長	社会教育の関係者
平田 誠治	→		登別市体育協会理事長	社会教育の関係者
鈴木 信義	→	→	登別市体育協会常任理事	社会教育の関係者
工藤 織枝	→	→	一般社団法人 登別室蘭青年会議所委員	社会教育の関係者
池畠 泰彦	→		登別市老人クラブ連合会会長	社会教育の関係者
武田 光廣		→	登別市老人クラブ連合会理事	社会教育の関係者
白川 敦子	→		登別市民生委員児童委員協議会 主任児童委員	家庭教育の向上に資する 活動を行う者
南 康子		→	登別市民生委員児童委員協議会 主任児童委員	家庭教育の向上に資する 活動を行う者
白田 明義	→	→	白田電気商会代表取締役	学識経験者
畑山 功一	→	→	登別市学校支援地域本部 実行委員会実行委員長	学識経験者
川島 芳治	→	→	登別市放課後子ども総合プラン 運営委員会委員長	学識経験者
楠本 賢一	→	→	楠本時計メガネ店代表	学識経験者
千葉 正俊	→		曹洞宗禅林寺住職	学識経験者

第5次登別市社会教育中期計画

平成28年10月発行

編集・発行

登別市教育委員会教育部社会教育グループ

〒059-0014 登別市富士町7丁目33番地

TEL : 0143-88-1129

FAX : 0143-85-9744

Mail : syakyou@city.noboribetsu.lg.jp

